

令和4年度「地域スポーツ連携・協働再構築推進プロジェクト」 委託事業成果報告書

岩手県

1 具体的な事業の実施内容

① 岩手町「いわてホッケークリニック&体験会」

1 目的

オリンピック等で活躍する岩手町出身のホッケー選手と身近に交流することで、ホッケーの魅力を確認し、小学生を中心とした競技人口の増加等につなげるとともに、ホッケーの町・岩手町におけるホッケーを通じた地域活性化を図る。

2 主催 岩手県

3 共催 岩手町、岩手町教育委員会、岩手県ホッケー協会

4 日時 令和4年12月17日(土) 9時から12時まで (受付: 8時30分から)

5 会場 八幡平市いこいの村岩手体育館 (八幡平市平笠 24-1-4)

6 対象 ホッケーに取り組んでいる、またはホッケーに興味がある小学生 (初心者歓迎)

7 内容

- ・ [経験者向け] ホッケークリニック
- ・ [初心者向け] ホッケー体験会

8 講師

- ・ 田中 泉樹 (2012年ロンドン五輪ホッケー女子日本代表)
- ・ 田村 綾菜 (コカ・コーラ レッドスパークス所属)
- ・ 和田 茜 (コカ・コーラ レッドスパークス所属)

9 参加料 無料

10 募集定員 70名



○申込者 42名

○当日の参加者 36名

- ・ 小学1年～6年生の全学年で申し込みがあり、4年、6年生の参加が多かった。
- ・ 初心者は1名
- ・ 他市町村からの参加者は2名、

○当日の様子

- ・ ウォーミングアップ (ジョギング、ストレッチ、スティックを使用しないゲーム等)





・パスやシュート練習、ゲーム等



田中泉樹さん(右)とパスの練習をする子どもたち

五輪活躍「先輩」に学ぶ 小学生対象 指導や体験

八幡平

小学生対象のいわてホッケークリニック&体験会(県主催)は17日、八幡平市平笠のいこいの村岩手で開かれ、岩手町出身の元オリンピックや社会人チームで活躍する「先輩」からさまざまな技術を学んだ。

県内の1～6年生約40人と、2012年ロンドン五輪代表の田中泉樹さん(30)=同町役場、田村綾菜選手(24)=コカ・コーラ、和田茜選手(24)=同の3人が講師として参加

した。子どもたちはボールキーパやシュート、試合形式の練習などに取り組んだ。講師から「相手を見てパスを出そう」「アイコンタクトと声を出すことを忘れないで」などの助言を受けながら、真剣な表情でプレーした。

岩手・川口小6年の佐藤利生君は「相手をしっかり見てパスを出すなど、基本的な部分も含めて学んだことを今後の試合に生かしたい」と汗を拭った。

○アンケート結果（抜粋）

- ・開催を何で知ったか 学校 12、指導者等 16、ポスター1、親 3/35 名
- ・とても楽しかった 27/35 名
- ・講師の教え方がとてもよかった 27/35 名
- ・また参加したい 30/35 名
- ・今後もホッケーを続けたい 32/35 名
- ・自由記載
 - ・講師の教え方が分かりやすかった。
 - ・パスやシュートのポイントを知ったので活かしたい。
 - ・いろいろな練習の仕方が分かった。
 - ・友達ができて楽しかった。
 - ・寒くない時がよかった。等

○岩手町の現状と課題

- ・ 大規模大会を開催できるホッケー場を有しており、各種ホッケー大会開催に利用されている。
⇒ [課題] さらなる利活用、交流人口の拡大
- ・ ホッケー人口は、少子高齢化等により減少傾向
⇒ [課題] 競技人口の増加

○「いわてホッケークリニック&体験」の企画

- ・ ホッケー場（屋外）は、11月までの利用（今回の事業実施は12月）であったことや、当プロジェクトの趣旨である、「地域住民のスポーツ参画を進めるための、自宅の近くで、手軽にスポーツを楽しめる環境整備の促進。」を考慮し、「ネオホッケー（プラスチック製のスティックやボールを使用し、幼児から高齢者まで楽しめる室内競技）」教室の開催も検討したが、岩手町の一番の課題である「ホッケー人口の拡大」促進に向けて、屋内施設（人口芝）を探し、競技経験者とトップ選手との交流と初心者を対象とする体験会を開催することとした。
- ・ 岩手町だけではなく、近隣の市町村の住民にもホッケーに親しんでもらい、競技人口の増加に繋げたいことから、広く周知を図ることとした。

○成 果

- ・ 元オリンピック選手や社会人チームで活躍するトップ選手から、基本的なことから、シュートなどさまざまな技術や考え方を学ぶことができ、皆いきいきとしていた。「とても楽しかった」「また参加したい」「今後もホッケーを続けていきたい」などの感想も多く、トップ選手からの刺激を受けながら楽しく学べる環境を作ることができた。

○課 題

- ・ 参加者の確保。（全体的に少なかった。特に初心者や他市町村の参加者が少い。）
 - 主催者の都合で、周知期間が短期間となってしまったこと大きな要因。夏場のスポーツであることから、開催時期が冬期で体育館となっていることも要因の1つ
 - 初心者（他市町村）の参加を促すための工夫が必要。（初心者に興味を持ってもらうような、ホッケーになじみのない人も簡単に参加できる内容等、どのような体験をする会なのか、もっとわかりやすい周知の検討が必要）
 - 子どもだけではなく、保護者も一緒に楽しめるような、大人も対象として、年齢や経験を問わず楽しめる内容を設定する等、参加対象を広げていく工夫も必要

② 八幡平市「はちまんたいノルディックday」

1 趣 旨

オリンピック等との交流により子ども達に夢や希望を与えるとともに、教室や体験会を通してノルディックスキー人口の拡大及び競技力向上を図り、ノルディックスキーのメッカである八幡平市におけるスキーを生かした地域のスポーツ振興と地域活性化に取り組むもの。

2 主 催 岩手県

3 共 催 八幡平市、八幡平市スキー連盟

4 後 援 八幡平市教育委員会、一般財団法人岩手県スキー連盟、一般社団法人八幡平市体育協会、八幡平市スキー大会実行委員会

5 協 力 一般社団法人日本バイアスロン連盟、岩手県バイアスロン連合、八幡平市ライフ射撃・バイアスロン協会

6 日 時 令和5年2月11日(土) 10時から12時まで (受付：9時から)

7 会 場 八幡平市田山グラウンド (田山クロスカントリーコース) (八幡平市馬場下タ 46-1)

8 対 象

- ・ クロスカントリースキーに取り組んでいる小学生
- ・ クロスカントリースキーやスキージャンプ、バイアスロンに興味がある小学生



(初心者歓迎)

9 内 容

- ・ [経験者向け] クロスカントリースキー教室
- ・ [初心者向け] クロスカントリースキー体験、スキージャンプ体験
- ・ 希望者は、同時開催の「いわて八幡平白銀国体デモンストラেশionsスポーツ『ミニバイアスロン』」射撃体験にも参加できます。



10 特別講師

永井秀昭 (北京オリンピック出場 ノルディック複合男子団体銅メダル) ※八幡平市出身
田中ゆかり (プロクロスカントリースキーヤー)

11 講 師

八幡平市スキー連盟 (国体入賞経験者 3名)

12 参加料 無料

13 募集定員 50名



○申込者 38名

○当日の参加者 35名

- ・ 小学1年～6年生の全学年で申し込みがあり、高学年の参加が多かった。
- ・ 初心者は、クロカン5名、ジャンプ9名
- ・ 他市町村からの参加者は21名。(八幡平市17名、雫石町8名、二戸市7名、盛岡市2名、滝沢市2名)

○当日の様子

- ・クロスカンントリー教室

遊び（鬼ごっこ）を取り入れながら、スケーティング感覚の養成や、講師を交えたショートコースでのレースを行いながらの指導

- ・クロスカンントリー体験

スキーの履き方の指導から始まり、片足だけスキーを履いての歩行訓練や、スキーを履いてジャンプ、駆け足の練習など



- ・ジャンプ体験

助走時の滑走姿勢について指導を受け、永井選手が見本を見せながら、繰り返しジャンプを行い講師からアドバイス



・射撃体験

個々に、操作の仕方や姿勢などの指導を受け、的に向かって射撃



・永井選手（北京オリンピック銅メダリスト）との交流会

メダルに触れる機会を設け、一緒に写真撮影を行った



目指せ未来のオリンピック
トップスキーヤーに技学ぶ

小学生がトップスキーヤーから距離やジャンプ競技の技術を学ぶ「はちまんたいノルディックday」(集など主催)は11日、八幡平市馬場下町の山山グラウンドで開かれた。

県内の児童約40人が、5グループに分かれて体験した。地元出身で北京冬季五輪総合男子団体銅メダルの永井秀昭さん(39)＝岐阜日野自動車、西和賀町出身の距離選手田中ゆかりさん(27)＝West. Wakk

a Athlete Clubから飛ぶ際の姿勢や体の使い方などを指導。子どもたちは距離のレースも楽しんだ。

初めてジャンプに挑戦した八幡平・寄木小2年の西田照之介君は「低い姿勢や飛ぶときに足を伸ばすことを学んだ。またジャンプに挑戦したい」と喜んだ。

同会場では17日に開幕する「いわて八幡平白銀国体」アモンストレージョンスポーツのミニバイアスロン体験も行われた。

田中ゆかりさん(五字科)と距離のレースを楽しむ子どもたち

国体前に スキー競技挑戦

開催地・八幡平で小学生

北京銅 永井選手ら講師

11日に八幡平市で開催する「いわて八幡平白銀国体」を盛り上げるため、クロスカントリー会場は山山グラウンドで11日、小学生対象のスキー体験が実施された。この日は、北京オリンピック銅メダリストの永井秀昭さん(39)＝岐阜日野自動車、西和賀町出身の距離選手田中ゆかりさん(27)＝West. Wakkが講師を務めた。

田中選手は、小学生に合わせた距離のレースも楽しんだ。

初めてジャンプに挑戦した八幡平・寄木小2年の西田照之介君は「低い姿勢や飛ぶときに足を伸ばすことを学んだ。またジャンプに挑戦したい」と喜んだ。

同会場では17日に開幕する「いわて八幡平白銀国体」アモンストレージョンスポーツのミニバイアスロン体験も行われた。

田中ゆかりさん(五字科)と距離のレースを楽しむ子どもたち

○アンケート結果（抜粋）

- ・開催を何で知ったか 学校 15、指導者等 17、ポスター1、その他 1/35 名
 - ・とても楽しかった 30/35 名
 - ・講師の教え方がとてもよかった 32/35 名
 - ・また参加したい 28/35 名
 - ・今後もノルディックスキーを続けたい 28/35 名
 - ・自由記載
 - ・講師の教え方がよかった。・講師に会えてよかった。
 - ・新しい滑り方がわかってよかった。・もっと大きなジャンプをしたかった。
 - ・友達ができた。
- (保護者)
- ・素晴らしい経験をさせることができた。
 - ・素晴らしい時間をありがとうございました。・とても楽しそうにやっていた。
 - ・大人の企画もしてほしい。見ていてとても楽しかった。
 - ・子供も初めてでも楽しかったようです。等

○八幡平市の現状と課題

- ・大規模大会を開催できる国内有数の施設を有しており、各種大会等で利用されている。今年度は、「いわて八幡平白銀国体」を開催
⇒ [課題] 更なる利活用、交流人口の拡大
- ・少子高齢化等によるスキー人口は減少傾向。特に、ノルディックスキーは、オリンピックメダリストを輩出しているものの、減少傾向にある。
⇒ [課題] 競技人口の増加、身近にノルディックスキーができる環境整備

○「はちまんたいノルディック d a y」の企画

- ・当初、八幡平市主催のアルペンスキー大会開催時に、トップ選手によるスキー教室の開催を計画していたが、八幡平市の強み（恵まれた施設、オリンピックメダリストの輩出、全国や世界大会の出場経験者が多数、様々な大会を開催してきたことによる運営ノウハウ、関係団体や市民の協力体制）を生かして、特に競技人口が減少しているノルディックスキー教室を開催することとした。

○成 果

- ・八幡平市、八幡平スキー連盟及び八幡平市ライフル射撃・バイアスロン協会等による連携協働により、前日からコース整備を行い、ノルディックスキー、スキージャンプ、バイアスロンの3競技同時に教室を開催することができた。参加者も希望により複数の競技に参加することができ、充実した内容となった。
- ・アンケート結果では、「とても楽しかった」「今後もノルディックスキーを続けたい」との感想が多く、「もっと大きなジャンプをしたかった。」との声もあった。保護者からの評価も高く「素晴らしい経験をさせることができた。」「素晴らしい時間をありがとうございました。」「大人の企画もしてほしい。見ていてとても楽しかった。」との感想があった。
- ・永井選手（北京オリンピック銅メダリスト）や、田中選手（プロクロスカントリースキーヤー）両講師からは、今日参加の子供達同様、雪で楽しく遊びながら滑っていた。そこから競技に繋がっている。楽しく滑ってほしいとの講評があった。両講師と交流することで、オリンピック選手や、プロ選手を目指すことも身近に感じながら、楽しく学ぶ環境が作れた。

○課 題

- ・参加者の確保
→ 全県の体育協会にポスターを配布し、周知を図ったことから、開催地の近隣市町村か

- らの参加者が多かった。地元からの参加者が少なかった。
- 初心者の参加を多く望むところだが、スタッフの調整、確保等の課題が発生。
 - 初心者に分かりやすい周知の工夫が必要だった。実際のジャンプ練習場をみて、この程度の高さなら、やらせてみたかったという保護者からの声があった。
 - 大人の企画の要望もあったことから、年齢を問わず楽しめ、参加者増加につながるような企画も必要。
- いわて八幡平白銀国体終了後の機運醸成
 - 競技団体や学校と連携した選手強化
 - 裾野拡大（体験会や、イベントの開催）
 - インフルエンサーによる発信
 - 選手・指導者・関係者の連携体制の確立
(課題の共有・解決に向けた検討、競技経験者や、引退者がいつでも指導できる環境づくり)

③ 宮古市「岩手ビッグブルズとあそぼう！！～Enjoyバスケット教室・ダンス教室～」

1 趣 旨	岩手県のプロスポーツ団体の一つである岩手ビッグブルズと連携し、小学生の低学年から高学年まで幅広く体を動かす喜び・楽しさを体感するイベントとして、バスケットボール教室、ダンス教室を開催することにより、スポーツの振興を図る。	
2 主 催	岩手県	
3 共 催	宮古市、宮古市教育委員会	
4 協力団体	宮古市バスケットボール協会、M・D・S（ダンススクール）	
5 日 時	令和5年2月19日（日） 午後1時30分～4時30分	
6 会 場	宮古市民総合体育館 メインアリーナ（バスケット教室） 幼児高齢者室（ダンス教室）	
7 内 容	バスケット教室（初心者向け 13:30～14:30） （レベルアップ教室 15:00～16:30） ダンス教室（ダンス体験 45分間：13:30～、14:30～、15:30～） 【ダンス教室参加者特典】 3月4日（土）の宮古市で開催される岩手ビッグブルズの公式戦のハーフタイムショーでのダンス披露	
8 対 象	バスケット教室：小学生（初心者・経験者） ダンス教室：小学生とその保護者（高齢者も可）	
9 講 師	バスケット教室：岩手ビッグブルズ選手 ダンス教室：岩手ビッグブルズチアリーダーズ	
10 参加料	無 料	
11 募集定員	バスケット教室（初心者向け）	30人
	バスケット教室（経験者レベルアップ）	30人
	ダンス教室（1回目）	10人
	（2回目）	10人
	（3回目）	10人



○参加者：バスケット教室：46名（うち他市町村の参加者13名）（初心26名、経験者20名）
ダンス教室：19名（うち保護者2名）（小1～3年 14名、4～6年 4名）

○当日の様子

【バスケット教室】

- ボールを使いながら、最初は1人で、次に2人組になってウォーミングアップを行った。1人がボールを高い位置から落とし、もう1人がキャッチするなどの単純な動きだったが、「ひざを曲げるのを意識して」などのアドバイス1つで、コツを得て上手に対応していた。



- ・ ドリブルからのシュート練習、オフェンス、ディフェンス練習は、講師の見本を基に、その都度アドバイス（左右両方からのレイアップシュート、動きのバリエーション、リズムの変化等）をもらいながら練習



- ・ 講師（3人）対5人でのミニゲームでは、皆本気を出して、いきいきとプレーしていた。



【ダンス教室】

- ・ 講師の見本を見ながら、少しずつステップを踏んでいった。1面鏡張りの部屋で、自分の動きを確認しながら踊ることができ、低学年の参加者が多かったが、皆すぐにできるようになっていった。
- ・ 最初はゆっくりとした音楽に合わせて練習し、徐々に通常の速さに移行していったが、リズムが取りやすく、親しみやすい内容だったこともあり、皆楽しそうに練習していた。教室に申し込んだ子供の弟妹も観客席で踊っていたし、廊下から終始見学している親子もいた。



○アンケート結果（抜粋）

【バスケット教室】

- ・ 開催を何で知ったか 学校 16、指導者等 5、ポスター 2、SNS 8、親 7/46 名
- ・ とても楽しかった 34/46 名
- ・ 講師の教え方がとてもよかった 37/46 名
- ・ また参加したい 35/46 名
- ・ 今後もバスケットを続けたい 36/46 名
- ・ 自由記載
 - ・ 教え方がすごくわかりやすく、楽しくて良かった。
 - ・ ブルズの選手がかっこよかった。ドリブルで難しい技ができた。
 - ・ サインしてくれてうれしかった。・試合を見に行きたい。

(保護者)

- ・ 楽しくてあっという間に感じました。・見ている側も楽しめました。
- ・ 自分も体験してみたいと思った。・他の市町村でも開催してほしい。
- ・ このような企画でバスケット入会者が増えてくれるといいな。等

【ダンス教室】

- ・ 開催を何で知ったか 学校 15、指導者等 5 20/17 名（重複回答）
 - ・ とても楽しかった 13/17 名
 - ・ 講師の教え方がとてもよかった 15/17 名
 - ・ また参加したい 14/17 名
 - ・ 今後もダンスを続けたい 11/17 名
 - ・ 自由記載
 - ・ 楽しかった
 - ・ 最初は難しかったけど、最後はできた
 - ・ 講師が優しくてかわいい
- #### (保護者)
- ・ 楽しそうにやっていた
 - ・ 妹にもやらせたい
 - ・ 練習回数がもっとあればよかった
 - ・ 普段できない体験ができた

○宮古市の現状と課題

- ・ 当市で唯一の、県内のトップ・プロスポーツチーム岩手ビッグブルズの公式戦が行われ、市も開催を支援している。
→〔課題〕体を動かす機会促進。競技人口の増加。プロスポーツチームの試合観戦者の増加。交流人口の拡大

○「岩手ビッグブルズとあそぼう！！～Enjoyバスケット教室・ダンス教室～企画

- ・ 岩手ビッグブルズの公式戦の前に、チームと子供たちをはじめとする市民との交流イベントの開催を検討。チームから、幅広い年齢層へのスポーツの参加機会の観点から、所属するチアリーダーによるダンス教室（幼児から高齢者まで参加可能な内容）を開催し、教室で覚えたダンスは、公式戦のハーフタイムで披露する等の提案があった。プロ選手との交流は、教室開催後のサイン会や写真撮影会などでの交流の提案があり、「岩手ビッグブルズとあそぼう！！～Enjoyバスケット教室・ダンス教室～を開催することとした。

○成 果

【バスケット教室】

- ・ 初心者も多く集まり、アンケート結果では、「講師の教え方がとても良かった。」「今回と同じような教室があった場合、「また参加したい」「今後もバスケットボールを続けていきたい」との感想が多く、「講師がかっこよかった」「教え方がわかりやすかった」など、プロスポーツ選手と一緒に、プレーできる楽しさや、迫力を肌で感じながら、楽しそうに生き生きと真剣に取り組んでいた。
- ・ 保護者からの感想も、「また参加したい。」「自分も体験したい。」「他の市町村でも開催してほしい。」など、好評だった。

【ダンス教室】

- ・ 小学校低学年の生徒の参加が多かったことから、ダンス教室が成り立つのか不安だったが、講師の教え方がよく、内容も覚えやすいものだったことや、後半は、ポンポンを渡され、皆気分も上がり楽しそうに続けていた。
- ・ アンケート結果では、「楽しかった」「最初は難しかったけど、最後はできた」保護者からは、「妹にもやらせたい」などの声があった。
- ・ 今回、教室参加者は、週末に行われるバスケットボール公式戦のハーフタイムでのダンスに参加できることとしており、参加希望があるか心配したが、殆どの参加者が希望する結果となり、体を動かすきっかけやプロスポーツ選手のプレーを観戦するきっかけに繋がった。

○課 題

- ・ 保護者から、「自分も体験してみたいと思った。」との声もあったことから、他の教室同様、バスケット教室も大人も参加できるような内容を検討し、幅広い世代と一緒に楽しめる企画も必要。
- ・ ダンス教室は、「チアリーダーによる教室。」であることが特徴であったが、少しハードルが高い印象を与えていたかもしれないので、参加者を確保するためには、親しみやすい内容であることを周知し、親子（幼児から高齢者）で楽しめるアピールを強めるなどの工夫が必要。

④ いわてスポーツプラットフォーム第1回会議開催

○日 時：令和4年12月16日（金）

第一部 13：30～14：30

第二部 14：35～15：40

○場 所：岩手教育会館多目的ホール及びカンファレンスルーム

○出席者：第一部 いわてスポーツプラットフォーム推進体制のメンバー、岩手県体育協会、各競技団体、各市町村体育協会、各市町村生涯スポーツ担当者等（会場出席者27名、リモート参加者約118名）

第二部 いわてスポーツプラットフォーム推進体制のメンバー（21名）

○内 容：第一部 ・いわてスポーツプラットフォームの概要説明

・国庫委託事業による3市町と連携した取り組み照会

・講演「スポーツを通じた地域活性化」

第二部 ・国庫委託事業の実証事業の推進に向けた検討について

・重点項目（大規模大会や合宿の誘致、トップ・プロスポーツファンの拡大、アスリートの県内定着）の推進に向けた検討について

※ いわてスポーツプラットフォーム：スポーツの力による健康社会の実現と人的・経済的交流を推進し、魅力あるスポーツのまちづくりや、県民が日常的にスポーツに親しみ、楽しみ、潤う豊かな社会の実現を目指すことを目的とする官民一体によるスポーツ推進体制

・ 第一部においては、岩手スポーツプラットフォームの概要の説明に続き、国庫委託事業の事業について県内市町村への横展開を図るため、今年度予定している3市町の実証事業の内容を、各市町村、競技団体、市町村体協等に周知した。

・ 「スポーツを通じた地域活性化」と題し、ふるさと納税を活用したプロジェクトの取組等について講演していただいた。

・ 第二部においては、下記分野に分かれて、推進体制のメンバーから各分野の現状や課題、今後取り組んでいきたい内容などの情報交換、情報共有を行った。

・ 今後、市町村や各競技団体へ意向調査を実施することとした。

（①大会合宿誘致②トップ・プロスポーツファンの拡大③アスリートの県内定着）

⑤ いわてスポーツプラットフォーム第2回会議

○日 時：令和5年2月7日（火）

・10：00～12：00（大会合宿誘致）

・13：30～15：30（トップ・プロスポーツファンの拡大）

令和5年2月28日（火）

・15：30～17：00（アスリートの県内定着）

○場 所：岩手教育会館カンファレンスルーム（2/28 体育協会会館）

○出席者：推進体制のメンバー

○内 容：・第1回会議の振り返り

・今後の具体的な取り組み

・市町村（競技団体）に行ったアンケート調査の内容確認と、来年度の取組について

2 今後の方向性について

【成 果】

- ・ オリンピック選手等や県内のトップ・プロスポーツチーム選手による各種スポーツ教室は、参加者や保護者のスポーツ意欲を高め、今後も継続して取り組んでいくきっかけとなったこと。
- ・ 全県的なスポーツ振興を図る官民一体の推進体制「いわてスポーツプラットフォーム」を設置し、各市町村の取組の促進に向けた検討ができたこと。
- ・ コーディネーターを配置し、いわてスポーツプラットフォームの各分科会の進行を務め全体の状況整理や、課題の取りまとめを行うとともに、3市町と連携した事業の内容を詳細に記録し検証を行うなど、次の取組へ繋げていく準備ができたこと。

【課 題】

- ・ 参加者の確保は全事業で共通の課題。準備期間や周知期間が短期間となってしまったことや、周知方法の工夫が必要。
- ・ 大規模大会等の開催実績があり、競技団体との連携が取りやすい岩手町や八幡平市であったことから、短期間の準備期間でも、このような取り組みを実施できたが、必ずしも他の市町村が同様に開催できる状況にはないこと。

【今後の方向性】

- ・ 令和4年度に実施した3事業について、他の市町村への横展開を図るため、今年度の取組について周知し、各市町村の状況や今後の意向調査を実施したことから、その内容について調整を図っていく。
- ・ いわてスポーツプラットフォームにおいて、大規模大会や合宿の誘致について促進していくこととしており、同様の取組が他の市町村において展開できるよう来年度以降も検討を進めていく。
- ・ また、県内のトップ・プロスポーツチームとも連携しながら、今年度の取組を踏まえ更に充実した取組の展開を目指す。
- ・ 実証事業の将来的な自走に向けて、企業と連携した取組などをプラットフォームの中で検討していく。
- ・ 同様に実施事業の自走にむけて、参加費用（保険料、講師謝金、会場費等）の徴収を検討。ただし、スキーなどのリース料が発生する場合など、参加費の額により参加者の確保が難しくなる等の懸念がある。
- ・ 現在でも参加者確保が課題であることから、今年度実施した内容を毎年継続し、応募者多数で締め切るような状況まで定着させてからの自走（参加負担）が理想と思われる。
- ・ 来年度も、市町村の特徴を生かした事業を実施し、今年度の課題の解消を図りながら、更にモデルを増やし、横展開に繋げていく。